病院図書室　16(1):28-29,1996

図書館員の四季

怠け者のREFRESH休暇

京都南病院 西村 和代

「返却の本を片づけないと机の上が空かない。単行書の受入、こんな事していられない。それより文献コピーが先？　パソコンの入替、NEC かMac ？」不覚にも、仕事中の独り言のような初夢をみてしまった。

ブックモービルに乗るのが夢だった私が、「病院図書室」という所へほんの寄り道のつもりで迷い込んで十数年。最初の数年は先輩の仕事に対する責任感と情熱を自分のそれと勘違いしながらも無我夢中で、あっという間に過ぎた。依存心が強く、生来怠け者なので世間様と比べてこの職場が忙しいのかどうかわからないが、タイムカードが31日間隙間なく埋まり、真っ黒になった頃には人並みにストレスが溜まってくる。目の前の仕事を作業と割り切らないと手がつけられなくなり、図書室の仕事がエンドレスに思えてきたり、利用者に声をかけられてもパソコンに向かって返事をしたりする。

こんな時、冬なら私はスキーに行く。京都南病院では '96年から REFRESH休暇が新設される。今まで長期休暇など夢のまた夢と思っていた。施行前ではあるが今年の冬は自分で REFRESH休暇と決め、初めて6日間の長期休暇をとり海外スキーに行った。往路の機中でパンフレットのInternetやIBM の文字が飛び込んでくると「Refresh！ 」とお呪いを唱えて閉じた。スキー場で働く若い日本人を大勢目にした。彼女たちを見ていると十数年前に持っていた苦の星の数程の選択肢と可能性と前向きな気持ちが蘇った気がした。

筋肉痛になるまで滑った満足感より、彼女たちからもらったお土産のおかげで、少しは REFRESH できたかな。

◇　◇　◇

この2年を振り返って

医真会八尾総合病院 大谷 志穂

病歴・図書の仕事について、もう2年が過ぎようとしています。全く図書の業務を知らないまま配属され、山のような文献相互貸借と容赦なく届く雑誌の整理に悪戦苦闘する毎日、それと平行して病歴の仕事もして行かなければならず、大変でした。しかし、先輩と二人、という安心感があり、何とか無事に1年を過ごすことができたように思います。

しかし、2年目は先輩が退職され、私自身が、先頭に立って、病歴・図書を切り盛りしていかなければならず、不安な毎日が続きました。何度となく、逃げだそうと思いました。しかし、そんな私の思いも知らず、医師から相互貸借が、次から次へと休みなくやってきました。振り返れば、ただ、先輩が築き上げたレールをひたすら、無我夢中で走って来ただけのように思います。

この2年間で大きく変わったことは、文献検索がCD-ROMでできるようになったことです。しかし、そのためには、一段と相互貸借業務の数は増え、私は、残業の日々を送っています。

また、後輩が入職し、今では、私自身が教えてもらう立場から、教える立場となっています。教える立場となって、始めて「人に教える」ことの難しさを痛感しています。

入職した頃の自分を思いだし、後輩と共により一層充実した図書室を目指してがんばっていこうと思っています。